

一般財団法人エンジニアリング協会 地下開発利用研究センター

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 3-18-19
(虎ノ門マリビル 10 階)

TEL 03-5405-7203(直通)/FAX03-5405-8201

ホームページアドレス ; <http://www.ena.or.jp/GEC/>

E-mail アドレス ; gec-adm@ena.or.jp

第 329 号 / 2017.2

Index

- 平成 29 年 新年賀詞交歓会 開催報告
- 2016 年 ENAA 10 大ニュース
- 平成 28 年度 地下利用推進部会 第 2 部会 現地見学会報告
- 平成 28 年度 地下利用推進部会 第 4 部会 現地調査報告
- 会員の皆様へのお知らせ
- 新規入会企業のご紹介

■平成 29 年 新年賀詞交歓会 開催報告■

1 月 5 日 (木) 午後 3 時 30 分より ANA インターコンチネンタルホテル東京において、平成 29 年新年賀詞交歓会が開催されました。

佐藤理事長の挨拶、来賓の糟谷経済産業省製造産業局長の挨拶、理事長の乾杯の音頭で始まった交歓

会は、小林環境事務次官、西脇復興庁事務次官をはじめ各省庁の局長、審議官などの幹部の方々、関連団体関係者、会員企業の代表者等 900 名を超える出席者で大いに賑わい、ますますの熱気と活力に溢れ、新たな門出に相応しい賀詞交歓会となりました。



糟谷製造産業局長の来賓挨拶



挨拶をする佐藤理事長



歓談する小林環境事務次官(左)と佐藤理事長



大いに賑わう会場風景



歓談する西脇復興庁事務次官(左)と佐藤理事長

■2016年ENAA 10大ニュース■

昨年の ENAA の 10 大ニュースをご紹介します。

- 1 本年も新規会員 21 社を迎え、賛助会員数が 228 社と順調に増加
- 2 3/4 以上の会員企業が、会員サービスに高評価（アンケート調査結果）
- 3 月平均 6 回を超える講演会は、その質についても高評価
- 4 関係省庁や関係団体、各国大使館と様々な形での交流
- 5 安全対策事業の継続・推進
- 6 SNS を活用したエンジニアリング産業の認知度向上
- 7 会員企業のニーズに即した人材育成事業の推進
- 8 海洋関連事業は、3 省庁と連携して活動が更に拡大
- 9 地熱関連の地方自治体からの依頼が増加し、新規会員も増加
- 10 石油開発環境安全センター設立 25 周年を祝う新規受託

地下センターの話題は 9 番目に地熱関連が取り上げられております。地熱資源量を評価する業務、発電機メーカーの選定、適切な補助金の選定等を第三者的な立場で行って来たことが評価されたものと考えています。これらの活動をホームページ、講演会等で知り、新規会員になりたいとの要望も増え、平成 28 年度は 6 社の入会がありました。

■平成 28 年度 地下利用推進部会 第 2 部会 現地見学会報告■

～Fujisawa サステイナブル・スマートタウン (Fujisawa SST) ～

*本事業は、公益財団法人 JKA の競輪の補助を受けて実施しています。

地下利用推進部会第 2 部会（エネルギー施設の強靱化に関する調査研究部会）は、平成 28 年度 2 回目の現地見学会を 11 月 28 日（月）に開催しました。見学場所は、神奈川県藤沢市にある Fujisawa サステイナブル・スマートタウン（以下「Fujisawa SST」）です。



現地見学会 参加一同

Fujisawa SST は、パートナー企業（代表幹事：パナソニック株式会社）と藤沢市の官民一体の共同プロジェクトとして創設されたモデル地域施設です。見学会当日は、室内で Fujisawa SST のプロジェクト概要（タウンコンセプト）の説明を受けた後、街区を歩き説明を受けながら、施設を見学

しました。

Fujisawa SST によるタウンデザインでは、生活基盤となる商業施設、医療施設を地域内に配置したコンパクトシティとしての一面と、太陽光発電による再生可能エネルギーの利用というスマートグリッドの一面を兼ね備えています。電力線、通信線は、地下共同溝で地下敷設されていました。

エネルギーの運用に関しては、街全体に構築されたスマートインフラを活用し、住宅や施設、公共用地を有効活用し設置された太陽光パネルによる 100kw 規模の「コミュニティソーラ」によって、



室内で説明を受ける参加者

再生可能エネルギー（電力）を創出し、街全体で使用するエネルギーの30%を賄う計画を目標に掲げ、タウンデザイン・ガイドラインを定めています。



Fujisawa SST 全体イメージ図※



Fujisawa SSTの全体目標※



公共用地を有効活用し設置された太陽光パネル

今回の現地見学会では、コンパクトシティ、スマートグリッド設備の実際のイメージをつかむことができました。

※「Fujisawa サステナブル・スマートタウン公式サイト」より

■平成28年度 地下利用推進部会 第4部会 現地調査報告■

～ 神戸市大容量送水管整備事業、人と防災未来センター、兵庫県広域防災センター、安治川トンネルおよび大阪市建設局道路部～

*本事業は、公益財団法人 JKA の競輪の補助を受けて実施しています。

地下利用推進部会第4部会は、「交通網施設の強靱化に資する地下空間利用に関する調査」に取り組んでおり、その一環として、今回は、以下の近畿圏の現地調査を実施しました。

平成28年11月30日（水）

- 神戸市大容量送水管整備事業（奥平野浄水場）
- 阪神淡路大震災記念 人と防災未来センター（（公財）ひょうご震災記念21世紀研究機構）

平成28年12月1日（木）

- 兵庫県広域防災センター（三木総合防災公園）
- 安治川トンネル
- 大阪市建設局道路部橋梁課

神戸市大容量送水管整備事業は、阪神・淡路大震災の教訓を踏まえて、新たに市街地を通る耐震性の高い送水管を整備するもので、平成28年3月に完成したものです。一部の区間で大深度地下使用法を適用し、私有地の地下が使用されています。

人と防災未来センターには、阪神・淡路大震災

で起こったことや子どもたちに伝えないといけなことを展示するスペースと、政府・地方自治体・コミュニティ・企業などの災害対策や防災政策の立案・推進に資する実践的な防災研究を行う研究部門があります。今回、研究員の方々と有意義な意見交換を行うことができました。

兵庫県広域防災センターは、平常時は、消防学校として消防職員・消防団員の教育、地域防災リーダーの研修、県民を対象とした防災体験学習を実施し、災害時には、県全域をカバーする広域防災拠点として、県内外からの救援物資の集積・配送、災害応急活動要員の駐屯、ヘリコプターの離発着拠点としての機能を果たしています。

安治川トンネルは、日本初の沈埋トンネルとして1944年に完成した延長80.6mのトンネルです。特徴は、歩行者用、車両用それぞれエレベーターがあることです。車両用は、1977年に廃止され、現在は、歩行者・自転車専用のトンネルとなってお

り、地元の多くの方々に利用されています。大阪市建設局道路部橋梁課では、このトンネルの歴史と今後の維持管理・活用について伺いました。

今回の現地調査にご協力いただきました関係者の皆様方にこの紙面をお借りいたしまして御礼申し上げます。



実物大断層用鋼管の前にて（奥平野浄水場）



情報交換状況（人と防災未来センター）



備蓄倉庫（兵庫県広域防災センター）



歩行者利用状況（安治川トンネル）

■ 会員の皆様へのお知らせ ■

□ 新規入会企業のご紹介

新たに当センターに入会された会員企業をご紹介します。

【会社名】

● 株式会社地熱開発

Geothermal Development Incorporated (GDI)

[http:// www.chinetsu.com](http://www.chinetsu.com)

【本社所在地】

〒105-0014 東京都港区芝 2-3-18

【事業内容】

株式会社地熱開発は地熱を中心とした再生可能エネルギーの開発と投資に特化したベンチャー企業です。

「地域の力で日本をエネルギー資源国に」をスローガンとし、地域コミュニティと共同で、発電所の開発及び投資事業を行っています。地熱では、九州に

始まり東日本でも地表調査や掘削を順次進めており、本年から発電所の建設を行う予定です。また、世界で多数実績のある35～280kWと幅広い容量のバイナリー発電機の販売権を正規に取得し輸入元となっております。地表調査においては、大深度掘削を伴うシェールオイルの探査手法として実績のある人工地震電気探査を、本年から地熱に応用し事業化します。地熱分野のベンチャー企業として、地域の財源確立、日本のエネルギー自給率向上並びに低エミッション実現に貢献して参る所存です。